新生児聴覚検査のご案内

赤ちゃんのお耳のきこえの検査を受けましょう！

生まれてくる赤ちゃんの1,000人のうち、1～2人は、生まれつき、きこえにくさがあるといわれています。

赤ちゃんのコミュニケーションと心の成長のためには、きこえの問題を**できるだけ早く**発見して、適切な支援をしてあげることがとても大切です。



Q1 どうして検査が大切なの？

きこえの問題があるかどうかは、外見ではわかりにくいものです。

できるだけ早い段階で発見するためにも、「新生児聴覚検査」を受けて、耳のきこえを確かめましょう。

鹿児島県では、ほぼすべての赤ちゃんが検査を受けています。

Q2 どんな検査をするの？

赤ちゃんがぐっすり眠っている状態で小さい音を聞かせ、その際の脳の反応や、耳の中から反射してくる音を測定する検査です。数分間で安全に行える検査で、赤ちゃんが痛みを感じることはなく、検査による副作用もありません。

Q3 検査はどこで、いつ受けたらいいの？

検査は、出産後、入院中に産科医療機関等で行います。検査は、まず生後３日以内に行われ、その結果、確認が必要な場合はおおむね１週間以内にもう一度検査を行います。

鹿児島県では、分娩を取り扱うすべての医療機関等で検査が可能です。

Q4 検査に必要な費用は？

検査費用は医療機関によって異なりますので、出産をする産科医療機関にお問い合わせください。

なお、鹿児島県ではすべての市町村で、費用の一部助成をしています。



※詳細は右の QR コードから御確認ください。

鹿児島県HP

赤ちゃんのきこえとことばの発達のめやす

耳できいたことばを習得するためには、0～4歳頃までが大切な時期！

3～4か月頃
- あやすとよく笑う。
- 見えない方向から声をかけてみると、そちらの方向を見ようとする。

6～7か月頃
- 家族と一緒にいるとき、話しかけるような声を出す。
- テレビやラジオの音がしはじめると、すぐそちらを見る。



9～10か月頃
- そっと近づいて、ささやき声で呼びかけると振り向く。

1歳頃
- 音楽に合わせて、体を楽しそうに動かす。
- 大人の言う簡単な言葉がわかる。



1歳6か月頃
- ママ、ブーブなど意味のある言葉をいくつか話す。
- 後ろから名前を呼んだとき、振り向く。

※上記の反応が見られても、片側のみできいていたり、小さくしかきこえていないことがあります。
※出産後、赤ちゃんのきこえに不安がありましたら、お住まいの市町村窓口へご相談ください。
※乳幼児健康診査、１歳６か月児健康診査、３歳児健康診査でも問診による聴覚のチェックを行います。

● 先天性サイトメガロウイルス感染症について ●

新生児難聴の主な原因のひとつに、先天性サイトメガロウイルス感染があります。
聴覚検査の確認検査でリファー（要再検）になった場合は、生後３週間以内に先天性サイトメガロウイルス感染症の検査を受けましょう。
検査については、出産した産科医療機関等にご相談ください。

詳細は右の QR コードからご確認ください。
http://cmvtoxo.umin.jp/download/
日本医療研究開発機構
パンフレット掲載先

鹿児島県保健福祉部子ども政策局子育て支援課母子保健係
TEL 099−286−2775
https://www.pref.kagoshima.jp/ae08/sinseizityoukakukensa.html